

地道に積み重ねた環境美化が交流を生み地域おこしに発展

環境大臣賞 青森県 八戸市立種差小学校

岩肌の美しい海岸線に沿って自然の芝原や色とりどりの海浜植物が咲き誇る種差海岸。平成 25 年に三陸復興国立公園に指定されたのを機に、年間 24 万人が訪れる観光地として脚光を浴びている。その雄大な景勝地に抱かれるように佇む同校では、地域の自然を守るために「ごみ拾い登校」を続けており、まもなく 25 年目を迎える。毎月ゼロのつく日に、全学年が通学路に散乱している空き缶などを回収し、出会った住民とあいさつを交わしながら登校。ごみが落ちていれば拾うのは当たり前という意識が定着した児童は、観光名所の海岸にも足を延ばし、漂着ゴミやペットボトルなどを分別回収している。住民や保護者とともに取り組むアルミ缶リサイクルも長年にわたる活動で、地域の協力もあって年間 1200kg のアルミ缶を回収する。

自分たちの意思できれいにしたり、回収したり、リサイクルしたりする活動は美化意識と同時に社会性を磨き、児童はいつそ地域に目を向けるようになった。平成 21 年からは、種差海岸ボランティアガイドクラブと連携して、海岸沿いに繁殖する特定外来生物オオハンゴンソウの駆除活動を開始。2、3m の背丈に育つオオハンゴンソウは、草丈の低い在来の海浜植物の生育を妨げることから、生態系への影響が危惧されている。

同クラブ代表の石津正廣さんは、「根絶に向けた駆除には多くの人手が必要ですが、種差小学校の子どもたちが参加してくれたことがきっかけとなり、今では多くの学校や市民団体が協力してくれるようになりました」とほほ笑む。

これらの活動を通して地域を自慢できるようになった児童は昨年度、観光客におもてなしをしようと地元産ふのりや海藻などを使用したお菓子を作って販売するプロジェクトをスタートさせた。漁業関係者や菓子店、観光協会の協力を得て、来年には本格販売する予定。児童が地道に取り組んできた環境美化が世代間交流を生み、ふるさとを守り育てる地域おこしに成長している。

青森県八戸市立種差（たねさし）小学校

学校長：小野 一樹

児童数：26 名(2015 年 11 月末現在)

住所：青森県八戸市鮫町赤コウ 55-59

電話：0178-38-2011

アクセス：「種差海岸」駅から徒歩約 13 分



写真上：海岸沿いに繁殖するオオハンゴンソウの駆除、写真上から 2 番目：海岸清掃では空き缶やペットボトルなどを回収、写真上から 3 番目：年 4 回のアルミ缶回収、写真下：児童発案のお菓子を対面販売中

